

食鳥処理場関係者の防疫認識を統一できた効果的な参加型演習とその成果

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○渡辺測子 山上左都子

三八地域は、養鶏密集地帯で高病原性鳥インフルエンザ等発生時（発生時）に大きな混乱が予想。そのため、これまで県職員等による防疫動員者の演習を繰り返し実施。しかし、食鳥処理場（処理場）の閉鎖など、発生時に直接影響を受ける関係者による演習は未実施。処理場再開要件の確認指導の際、会社の部署により処理場の防疫に関する認識の違いが判明。発生時の混乱防止のため、全ての処理場関係者を対象に防疫演習を開催。演習は、①処理場での発生、制限区域内での対応を詳細に説明②グループ毎に同じ内容を当所職員が模式図と立体アイテムを用いて図上で演習③参加者全員が同じ演習を実施し体験④想定外の条件を付与し、参加者が自ら考え演習するなど、「聞かせて、やって見せ、やらせてみて、考えさせる」内容とした。演習終了後アンケート調査を実施。防疫内容を「理解した・だいたい理解できた」が100%。関係者の防疫認識を統一でき、刻々と変化する状況を具体的に想像できる効果的な演習と高評価。さらに、発生時に処理場が行う防疫措置と演習の内容をまとめたハンドブックを作成し関係者に配布。ハンドブックは、「社内教育にも役立ち、会社が行うべき対応を確認でき発生時の心配事が減った」と好評。また、会社は演習を契機に、処理場再開要件や具体的な対策を記載したマニュアルを作成。今後も、防疫対応のため、生産者や関係者を対象とした効果的な演習を実施する所存。